

68

地域における乳歯齲蝕の実態とそれに関連する歯科保健動向の把握  
～PRECEDE-PROCEEDmodelを用いた質問紙調査～

○神崎昌二 鍛冶山徹\* 中村謙治 松岡奈保子 筒井昭仁\* 境 脩\*  
福岡予防歯科研究会,福岡歯科大学予防歯科学講座\*

要約: 熊本県K町の乳歯齲蝕状況と関連する諸問題改善の為にPRECEDE-PROCEEDmodel(以下PPmodel)に基づき地域歯科保健に取り組む事となった。まずは質問票を開発しPRECEDEに従って地域診断を行った。対象はK町の幼稚園・保育園の3~5歳児(276名)とその保護者で,園児には歯科検診(以下検診)を,保護者には質問票調査を行った。対照として福岡市内の同年齢の園児(350名)とその保護者を設定した。このPPmodelに従い社会,疫学,行動・環境,教育・組織の4段階の診断を行ったところ改善すべき問題点が明らかになった。(索引用語:乳歯齲蝕,プリシード・プロシードモデル,地域歯科保健)

目的

地域保健法施行に伴い保健所・市町村の地域診断機能の強化及び市町村を中心とした状況に応じた地域保健の事業の実施と評価が求められてきている。市町村が事業を行う上で計画の策定は重要である。Greenらの開発したPPmodelは地域診断と政策作り,実施と評価に際し有用であると評価されている。今回K町の乳歯齲蝕の有病状況の改善とそれに関連した母子のQOLの向上を目標とし,現状の問題の質と大きさの把握,それをもたらす要因系を明確にする事を目的とした。

対象及び方法

対象はK町の全6園に在籍する3~5歳児(276名)とその保護者である。同町は熊本県のほぼ中央に位置し,人口約12000人,主産業は農業であり,町内には3軒の歯科診療所(97年9月30日現在)がある。対照として福岡予防歯科研究会が福岡市において健康作りの支援(フッ化物洗口実施)を行っている3園の3~5歳児(350名)とその保護者を設定した。調査は園児の検診と保護者の質問票調査から成っている。PPmodelに基づき乳歯齲蝕の発生に関わる要因を選定して質問票を開発した。両地域とも97年9月に託送調査法により調査を実施した。検診はK町では97年11月~98年1月,福岡市では97年5~6月と種々の事情により約半年のズレが生じた。

結果

質問票はK町で267名(96.7%),福岡市で296名(84.6%)から回収された。検診にはK町で206名(74.6%)が,福岡市で238名(68.0%)が参加した。社会診断において母子のQOLでは図に示す通り4つの項目に差が認められた。年齢別にみると3歳児では各質問の回答に差はなく,4歳児ではK町に「治療に連れて行くのが大変だった」,5歳児では「食べられなかった」「夜眠れなかった」が多かった。疫学診断において図に示す通り各年齢群のdef者率及びdef-indexはいずれも福岡市に比べ高い値を示した。行動・環境診断では乳歯齲蝕要因である1.仕上げ磨きの開始時期の遅れ,2.哺乳壺の使用中止時期の遅れ,3.断乳の時期の遅れ,4.夕食後就寝までの甜食の摂取が多い事,5.定期検診を受けている者の割合が低い事について差が認められた。環境としてK町で兄弟数が多く,祖父母との同居率も高かった。教育・組織診断では以下の結果が得られた。準備要因では齲蝕予防に関する用語の認知率を見るとシーラント,フッ素洗口という専門家が提供するサービスに関する用語が低かったが,その他の一般的な知識,信念,態度等には差はなかった。強化要因では周りの人の協力・支援を意味する項目の中で「近所の人や祖父母からのおやつ」「定期検診を受診する為に家族の協力が必要」がK町で多く,「定期検診を受ける事を奨められた」が少なかった。実現要因では図に示す通りおやつとの与え方,歯磨き指導等専門家からの情報提供は福岡市に比べ多くの保護者が受けていた。それらの指導や情報を得る場はK町では乳幼児健診(65.2%)であり,歯科医院は29.2%と少なかった。全体を通じてK町の情報提供は保健婦からが多かった。定期検診受診希望は福岡市に比べ少ないものの72%の保護者は受診を希望していた。

考察

社会・疫学診断の結果,K町では福岡市との比較で園児の齲蝕に関連してより多くの生活上の困り事を抱えている事がわかった。また,子供の加齢に伴い乳歯齲蝕が増加し,QOLの阻害状況に関して両地域の差が開く傾向がみられた。乳歯齲蝕とQOLとの間には関連性があると推察する事ができる。教育・組織診断の結果,準備要因においておやつ・仕上げ磨きに関する知識は今までの保健事業によりほぼ行き渡っており,実現要因である指導する人材・場の確保もできていたが,強化要因が十分ではなかった。フッ化物応用・定期検診に関してシーラント,フッ素洗口という専門家が提供するサービスに関する用語の認知率が低かった。今後断乳時期等の育児に関する指導や専門家が直接関わるような事業の立案が必要であろうと考えられる。今回PPmodelを用いた地域診断により乳歯齲蝕の問題の質,大きさを系統立てて明らかにする事ができた。これらの結果は市町村を中心とした地域保健の事業計画の策定に有用であり,各要因系はそれぞれに関係する人々の参加を促す為の材料になると考えられる。問題解決の為の各種事業を考えると,より効果を得る為には地域診断を行った上での的を絞った事業を立ち上げる事が地域保健事業にとって重要になると考えられる。今回検診の実施時期にズレがあったが,有病状況の結果に十分な差があり,全体を考察する上で問題となるものではなかった。

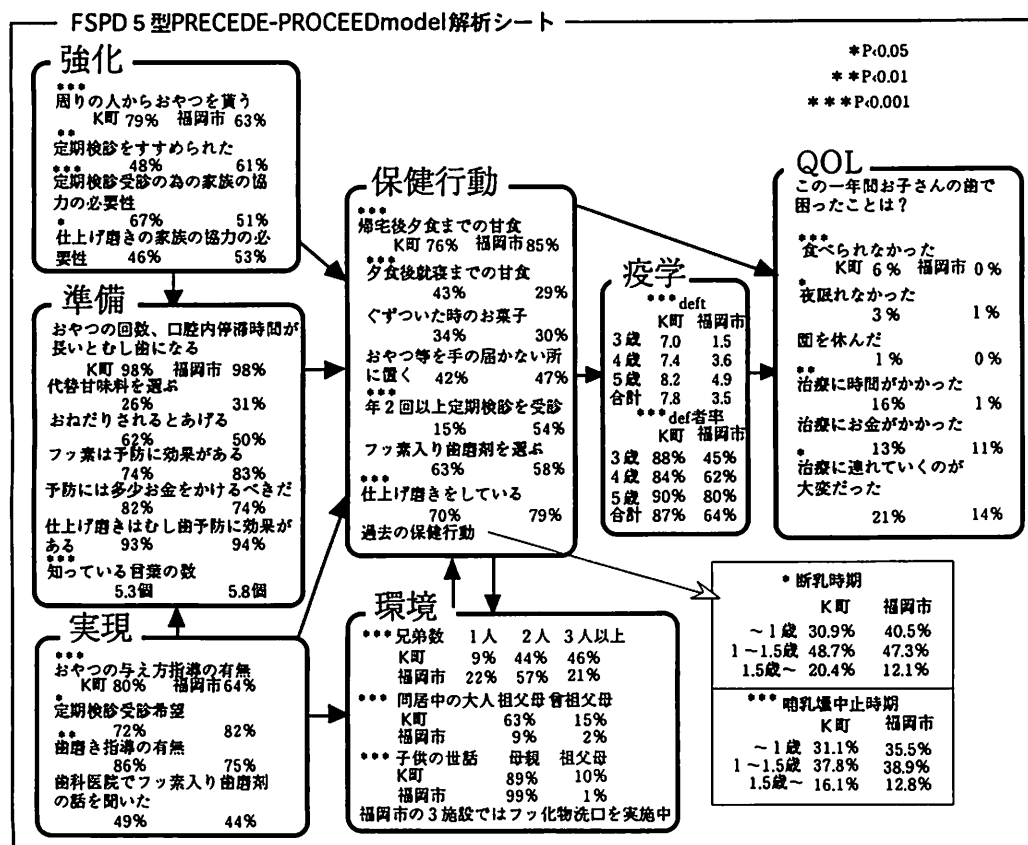


図 PRECEDE-PROCEEDmodelに沿った調査結果